

目指す学校像	確かな学力と豊かな人間性を育て、グローバル化社会に適応できる生徒を育成する。
--------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

重点目標	1 主体的に学習に取り組む態度や学習意欲を向上させ、学習内容の定着を図る 2 基本的な生活習慣を確立させ、自主自律の精神を育て、生徒会活動や部活動を通して、協調性や社会性を高める 3 あらゆる機会に進路意識の高揚を図り、多様に変化する社会に適応できる生徒を育成する 4 地域に開かれた学校づくりを推進するとともに、グローバル化先進校としての取り組みを進める
------	---

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標			年度評価（2月1日現在）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○新校舎の建築が始まり、教育活動スペースの制約が余儀なくされる中で、生徒の学習活動が効率よくそして満足できる内容となるように工夫する必要がある。学習環境の整備や生徒の安全確保、授業展開の改善に努め、生徒の意識向上に繋がるよう配慮が必要である。	教育活動スペースの縮小化への対応 学習意欲の向上と学習内容の定着	1 生徒の安全を確保する。 2 スペースの縮小化に対して適切な対応を取り、行事等に対する生徒の満足度を維持する。 3 工事業者と連絡を密に取り、注意事項など教職員間での共通理解をするとともに、生徒へ情報提供をしっかりと行う。	1 生徒が不便を感じずに学校生活を送れたかどうか。 2 行事後のアンケートで確認する。 3 工事業者との打合せを定期的に行う。	・定期考査や授業等、音と振動への対策が不十分で生徒達が不利益を被っていた。特に考査中のリスニングの試験などでは考査会場を変更するなど対応に追われ事前に十分な対応が取れなかった。行事等については、それなりの対応ができ満足できる内容であった。工事業者との打合せは定期的に行えた。	B	・できるだけ工事内容を把握して事前の改善策を考え対処するようにする。 ・新校舎関係のことが具体的にスタートするのでその余波をできるだけ受けないようにする。
2	○生徒の多くは、明るく活発な様子であり、特に学校行事においては、積極的に取り組み、その成果を上げている。その反面、頭髪や服装の乱れ・朝の遅刻など、改善を要する生徒も見受けられる。そこで、公共のマナーやルールを生徒が自ら考え守れるように、指導する。 ○学校行事や部活動・委員会活動を通して、今まで積み上げてきた西高の伝統に、さらなる要素(全ての生徒は、「自ら考え、努力すれば」必ず主役となる場面や機会)を加え、たくましく生きていける生徒を育てる。	基本的な生活習慣の確立と社会性を身につける 生徒のリーダーシップの育成と世界に貢献できる人格の形成	1 学校生活における、定められた時間やルールを守らせ、生活のリズムを整える。 2 無断欠席等があった場合は、必ずホームルーム担任が家庭と連絡をとり、状況を確認する。 3 登下校時のマナー(バス乗車状況、自転車の乗り方等)をより一層改善するために、バス乗車指導や交差点立哨指導を行う。	1 遅刻指導や服装頭髪指導の対象者が、各学年において、前年度と比較し減少したか。 2 無断欠席等が無かったか、または、あっても、その都度、担任が家庭と連絡を取り合っていたか。 3 登下校時の交通事故が無く、近隣からのマナー違反についての苦情が無かったか。	・学校生活のその先を見据えて、マナーとルールに関わる指導を継続しているが、前年度と同様に、まだ徹底出来ていない。 ・担任・生徒・保護者の連携がしっかりしており、学校と家庭で、それぞれの状況を把握し合いながら指導にあたっている。	B	・基本的生活習慣の確立と社会性を身につけるための働きかけとして、公共のマナーやルールについて生徒とともに考え、行動に移していく。
3	○国公立大学や難関大学への進学者が増加傾向にあり、多くの生徒が上級学校への進学を目指して、計画的に取り組んでいる。しかし、中には具体的な取組みが乏しく、実力を発揮できない生徒もいる。そのため、早い段階からきめ細かく進路指導を繰り返し行い、進路意識の高揚を図る必要がある。	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の取組	1 オンライン予備校を1・2学年全員と3学年の希望者に導入し、生徒一人ひとりの実力と進路希望に合わせた対策講座を受講させる。 2 平日や長期休業中の補習に加え土曜進学セミナーを開講し、受験に特化した授業を受ける機会を設ける。 3 学習到達度テストや校外模試等を利用し、結果を分析することで、生徒の進路実現に向けた個別指導を充実させる。 4 センター試験対策講座を実施し、センター試験の受験を促進する。また、推薦入試等で進路が決定した生徒には、学力の向上を図るために各種検定試験を受験することも促す。	1 オンライン予備校を利用することによって家庭学習時間が増加したか。 2 補習及び土曜進学セミナーの参加者の割合が増加したか。 3 学習到達度テストや校外模試の結果を生徒の指導に役立てられたか。 4 センター試験や各種検定試験の受験者の割合が増加したか。	・一昨年度より全学年で導入したスタディサプリは、授業内容に関連させたり、定期考査範囲や週末課題として課したりすることによって、熱心に取り組む生徒が増えた一方で、全体の視聴時間は増加していない。 ・生徒一人ひとりの進路実現のために授業日や長期休業中の補習、土曜進学セミナーを行い、昨年度と同数の生徒の参加があった。 ・試験等の結果分析の利用は、昨年より活用された。 ・3年生の進路に関しては、昨年度に比べ一般受験に臨む生徒の比率が増加した。また、GTECを1学年に加えて2学年でも導入するなど、英語の検定試験の受験者数が増加している。	B	・生徒に進路意識をもたせるため、2学年では進路別ガイダンスを充実させ、3学年では進路実現に向けた二者面談を繰り返すなどの指導が重要である。そのためにも各学年で早期からの指導体制をしっかりと構築できるように、教員間で指導方針に対する共通理解ができるような方策を考える必要がある。
4	○地域に根ざした学校にするため、HP等を充実させ情報を発信すると共に、学校行事等で地域住民と交流し、情報交換などをする必要がある。また、グローバル化先進校として、国際交流の機会を適切に設定してきたが、実際に海外の文化等を体験できる生徒の人数は少ない。	地域に根ざした学校づくりと国際社会へ開かれた学校づくりを推進	1 学校行事（文化祭等）に地域住民の方を招き、本校生徒の活動を見る機会を設ける。 2 随時HPを更新することで、本校の魅力を保護者や地域等に伝える。 3 海外研修の機会を活かしたり、校内での外国人との交流の機会を積極的に設けたりすることで、異文化交流を進める。	1 文化祭等における地域住民の参加者数が増加したか。 2 HPを随時更新し情報発信をすることができたか。 3 短期研修に関して、予定人数を越える参加希望者がいたか。また、留学生の派遣および受け入れが昨年度より増えたか。	・文化祭では校内改修工事中でありながらも前年度程度の地域住民の参加者数となった。 ・地域に根ざした学校にするため、HPを毎日更新した。 ・短期研修に関しては予定人数を越える参加希望者がいた。長期留学生の派遣数が増加した。受け入れ人数は昨年度と同数であった。	A	・地域の方々に対して本校の魅力を伝えるためにあらゆる機会を通じて情報の発信を続けていく。

学校関係者評価	
実施日	平成30年2月26日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・工事自体について地域住民からの苦情は出ていない。 ・授業見学等を通して、学習の効果を細部に渡って検証することが必要であると感じた。	
・小学校の下校指導にも参加しているが、交差点で自転車の生徒と小学生が危ない状況になることがある。注意して欲しい。 ・自分が参加する活動でも感じるが、家庭で行うべきしつけを学校でやらなければならぬ状況があり、学校も苦勞があるのだろう。 ・部活動の発表を見たが、生徒が互いに協力して活動する姿は素晴らしい。 ・生徒数が減少する中で、地域の人の中には学校の役に立てればと考えている人もいる。必要ならば声をかけてほしい。	
・大学を出ても職がなく、30代40代で無職になっている例を身近で見える。自分の適性が分からないようである。 ・学校が変わっていく中で生徒が寂しさを感じているのではないかと。しかし、そのような状況を先生方と打開していく経験が社会人としての土台となっていくのではないかと。	
・野球部の地域清掃の活動には、とても感謝している。 ・地域に根ざした学校と認識しているので、行事への招待券などの配布があれば、地域で広く協力できると思う。感動的な行事には人が集まる。そんな工夫をしてはどうか。 ・外国の方との交流では抵抗感はないか。生徒より、政治的なことなどがあるがお互いまったく影響はないと回答した。	